

津波浸水想定図

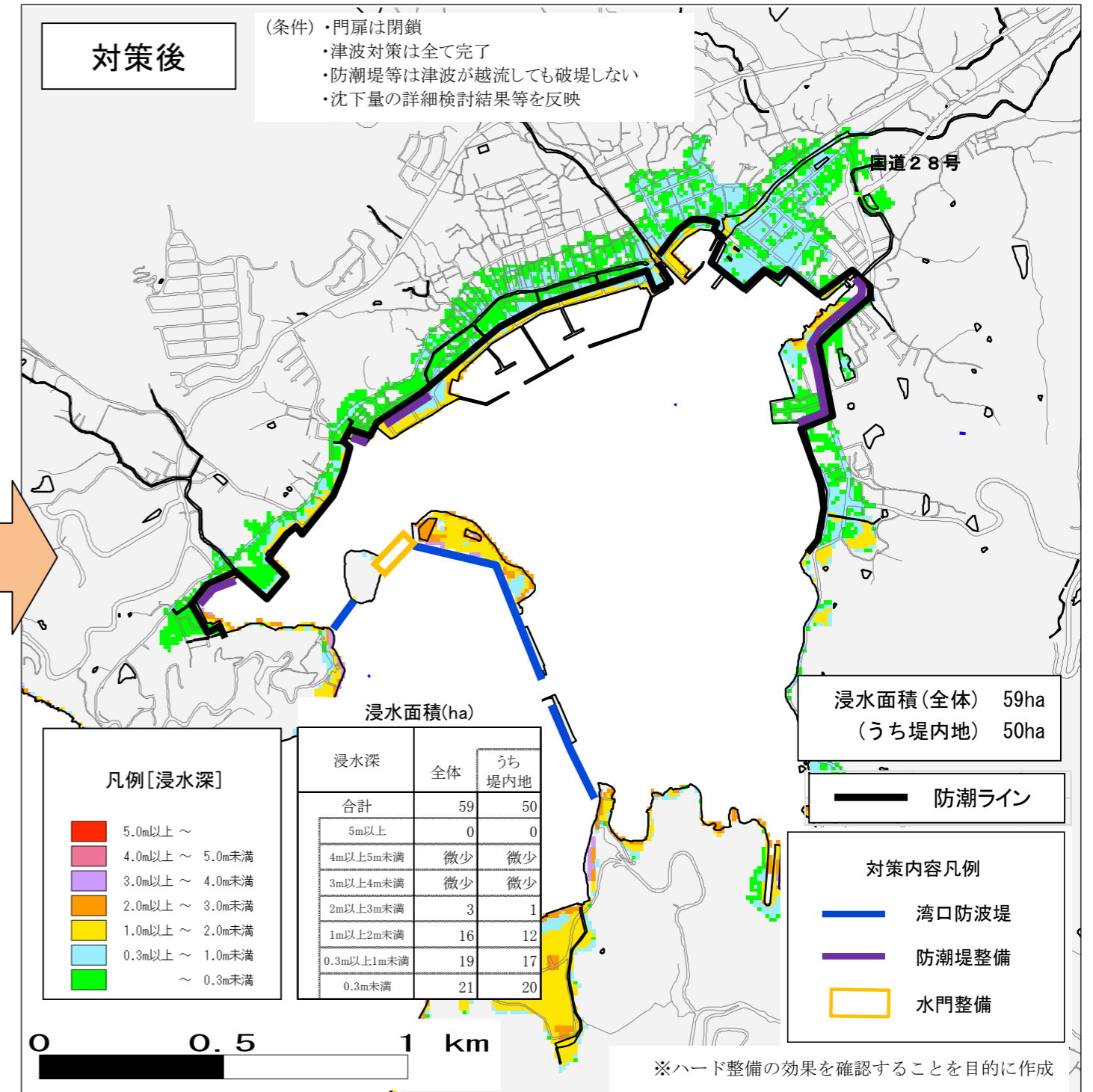
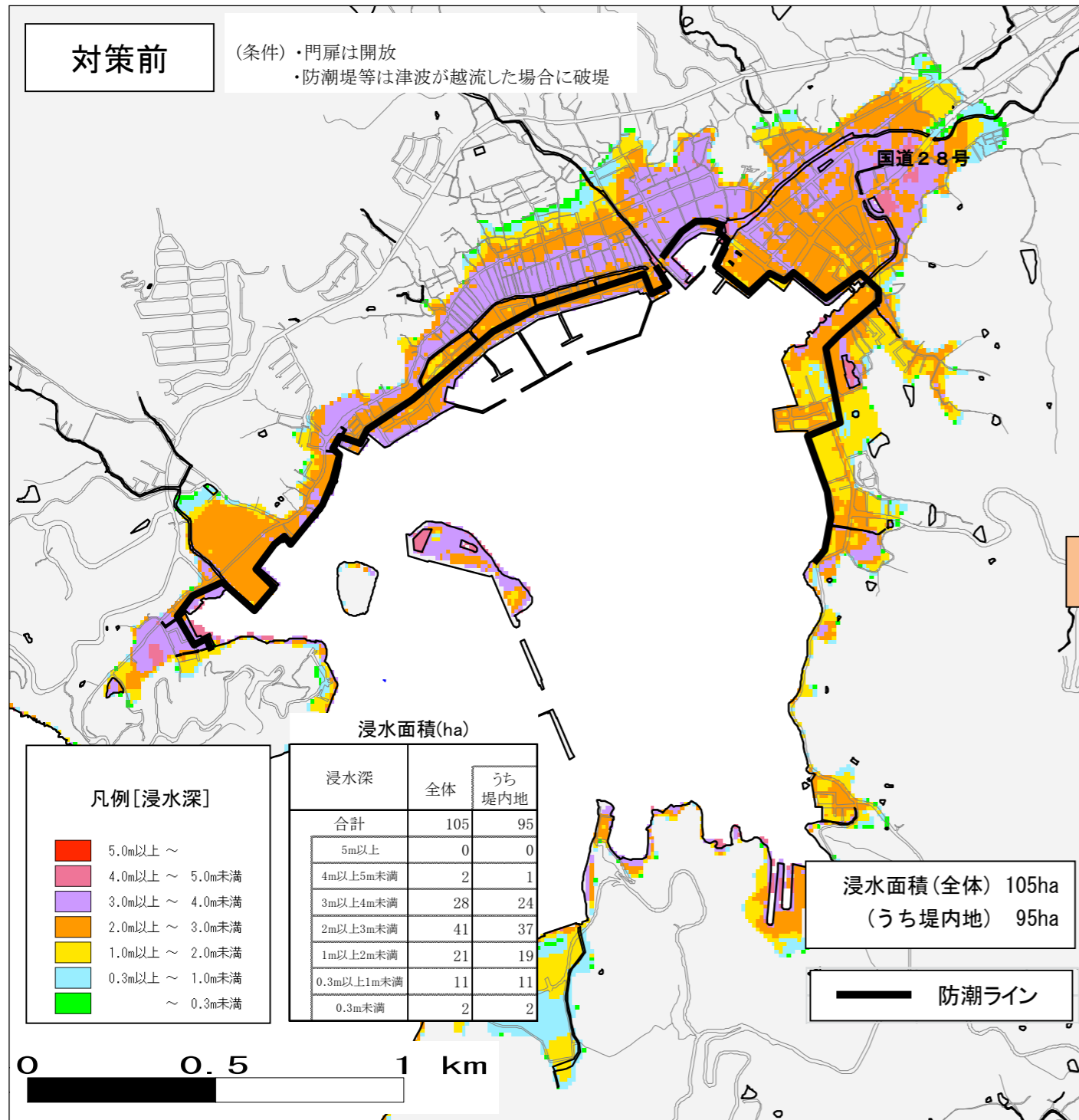
福良港 (L1 津波)

<効果>

- 堤内地の浸水面積を約5割縮減 (95ha→50ha)
- 人家部の浸水深を概ね1m未満に低減
- 木造家屋の全壊がほとんど生じない

<津波対策>

- ① 湾口防波堤の整備 1基
- ② 防潮堤の整備 0.8km
- ③ 防潮堤の越流対策・引波対策(基礎部の洗掘対策) 3.7km



【留意事項】

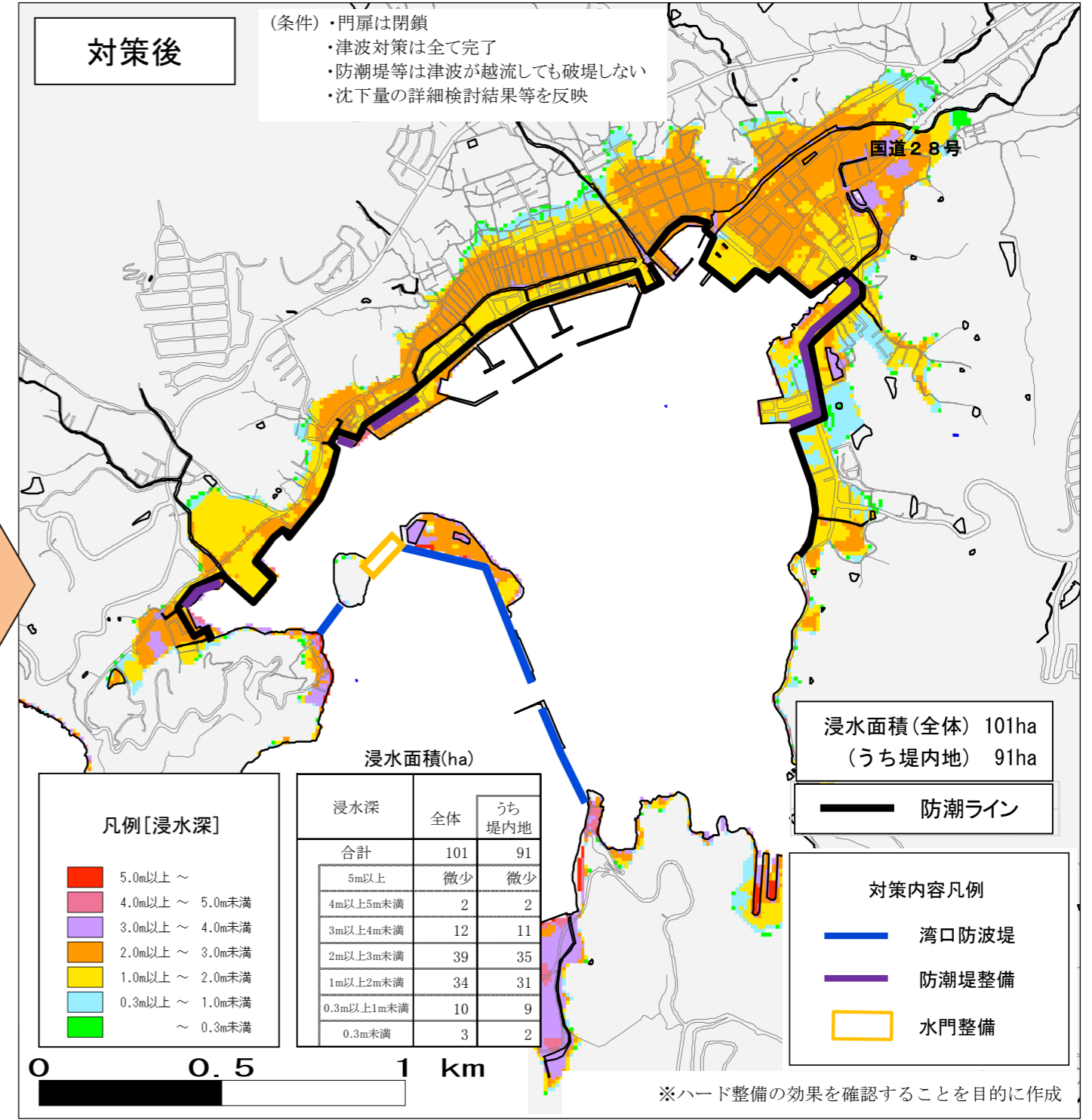
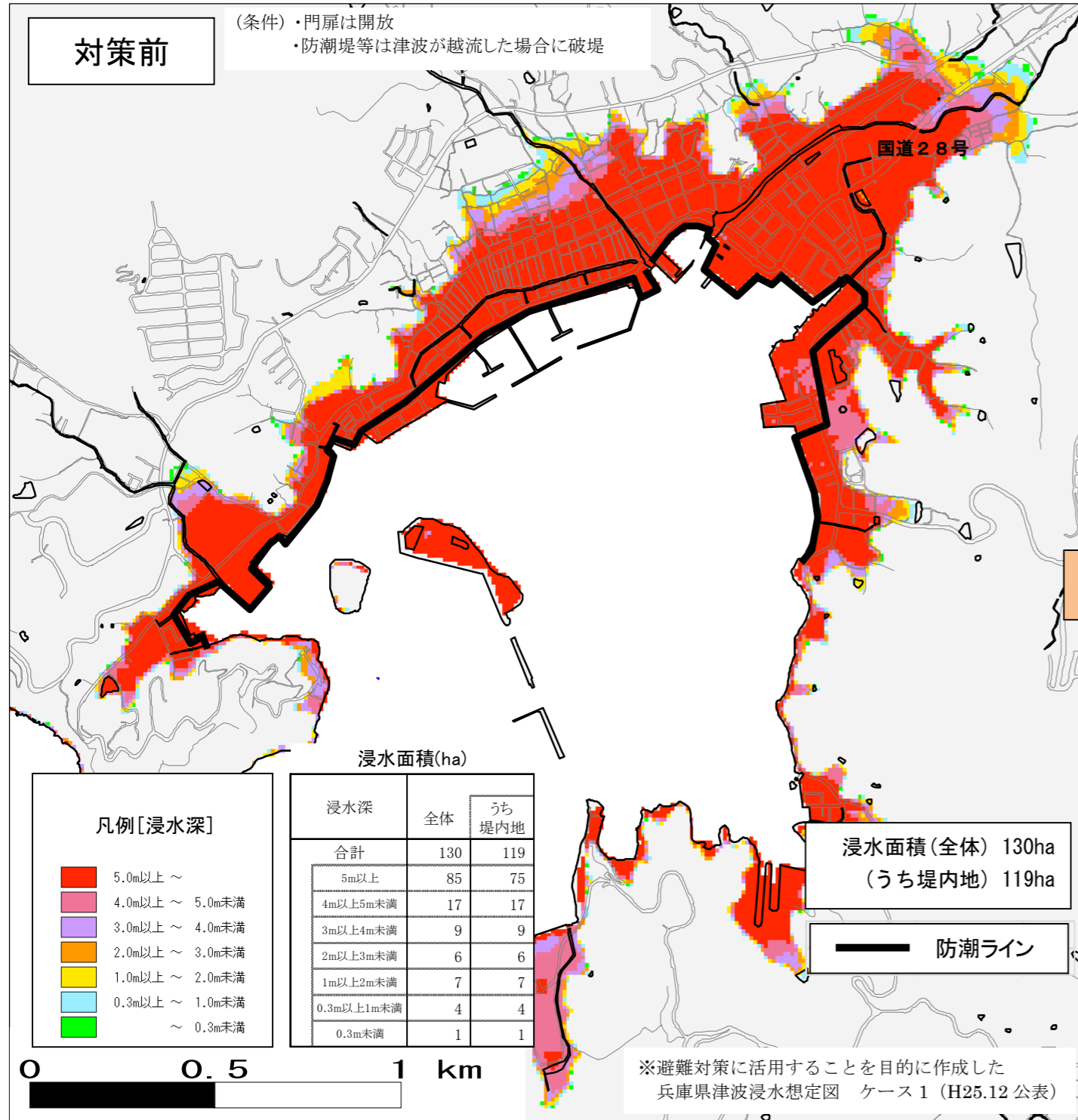
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。

福良港 (L2 津波)

<効果>
 ○ 堤内地の浸水面積を約2割縮減(119ha→91ha)

<津波対策>

- ① 湾口防波堤の整備 1基
- ② 防潮堤の整備 0.8km
- ③ 防潮堤の越流対策・引波対策(基礎部の洗掘対策) 3.7km



【留意事項】

- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。

津波浸水想定図

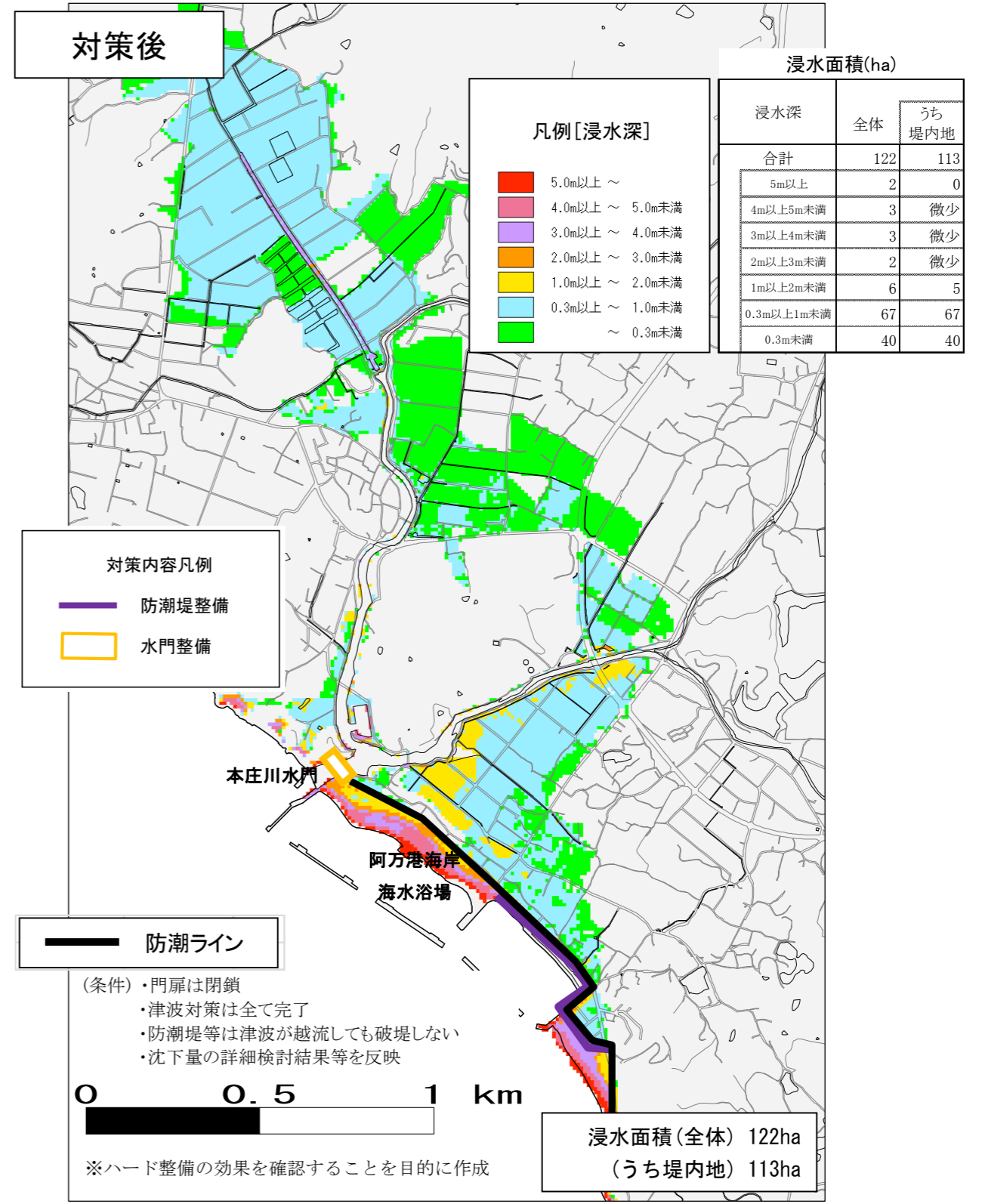
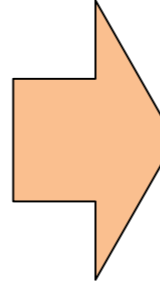
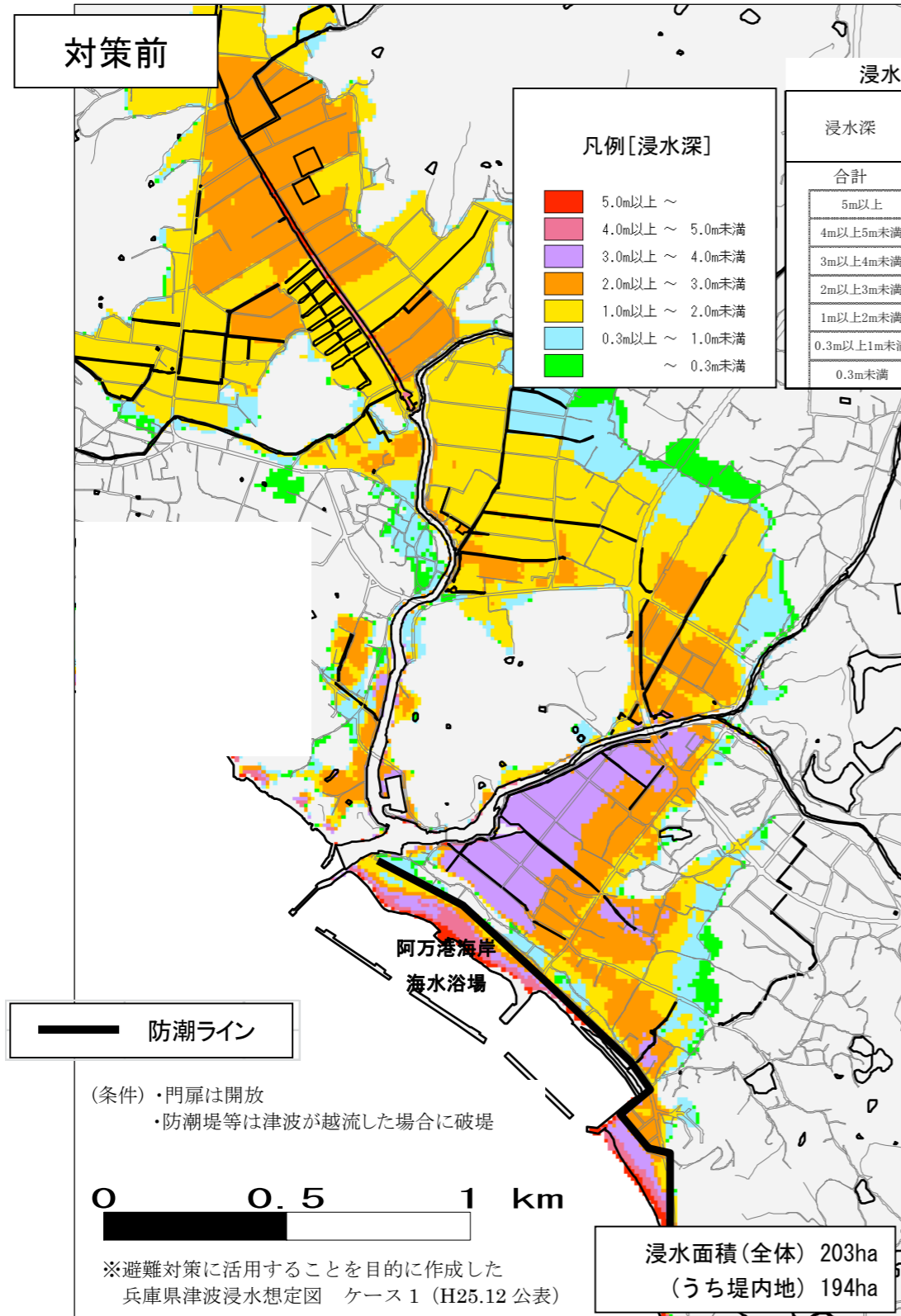
阿万港 (L2 津波)

<効果>

- 堤内地の浸水面積を約4割縮減(194ha→113ha)
- 人家部の浸水深を概ね1m未満に低減
- 木造家屋の全壊がほとんど生じない

<津波対策>

- ① 本庄川水門の整備 1基
- ② 防潮堤の整備 0.7km
- ③ 防潮堤の越流対策(基礎部の洗掘対策) 1.1km



【留意事項】

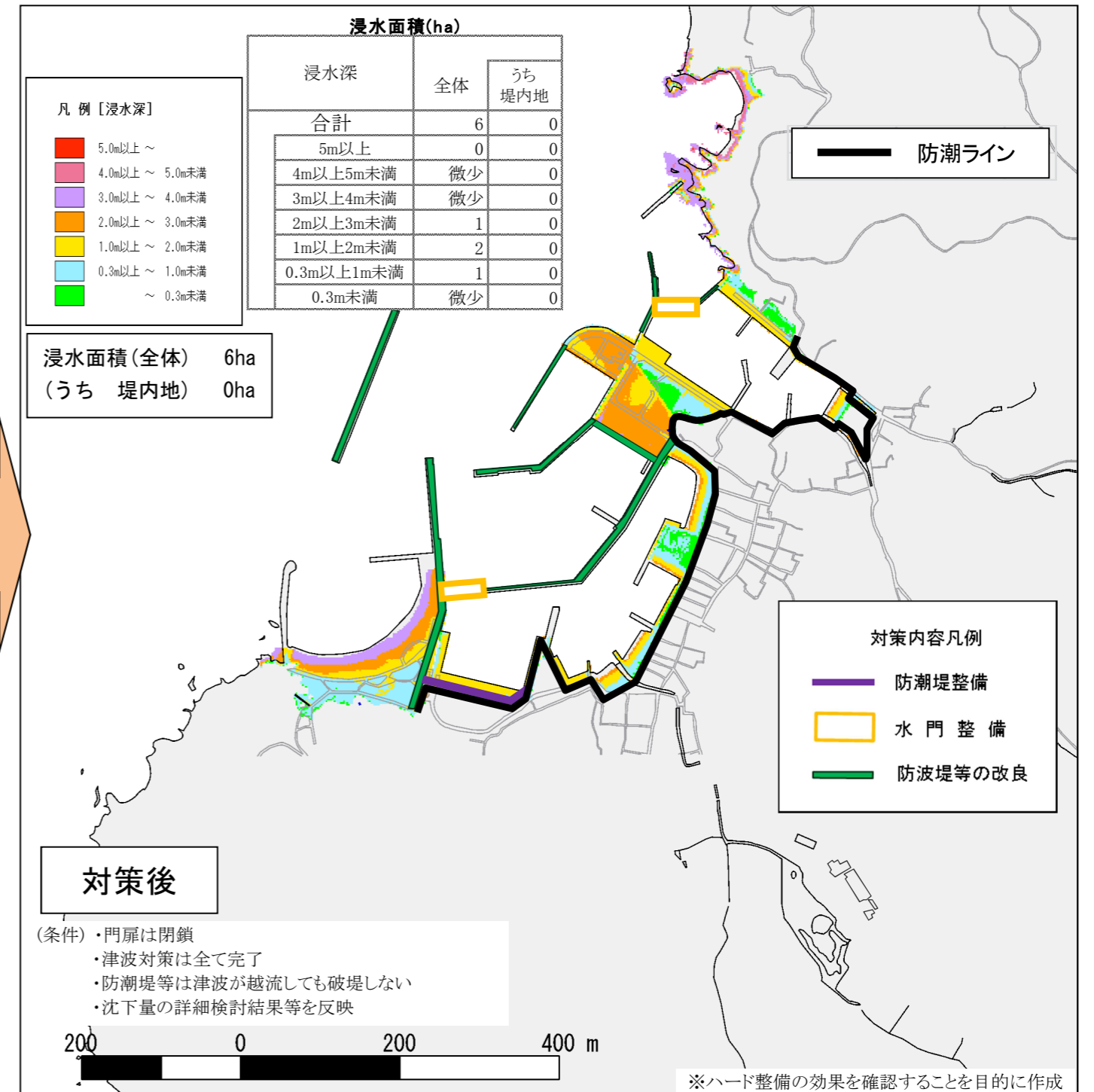
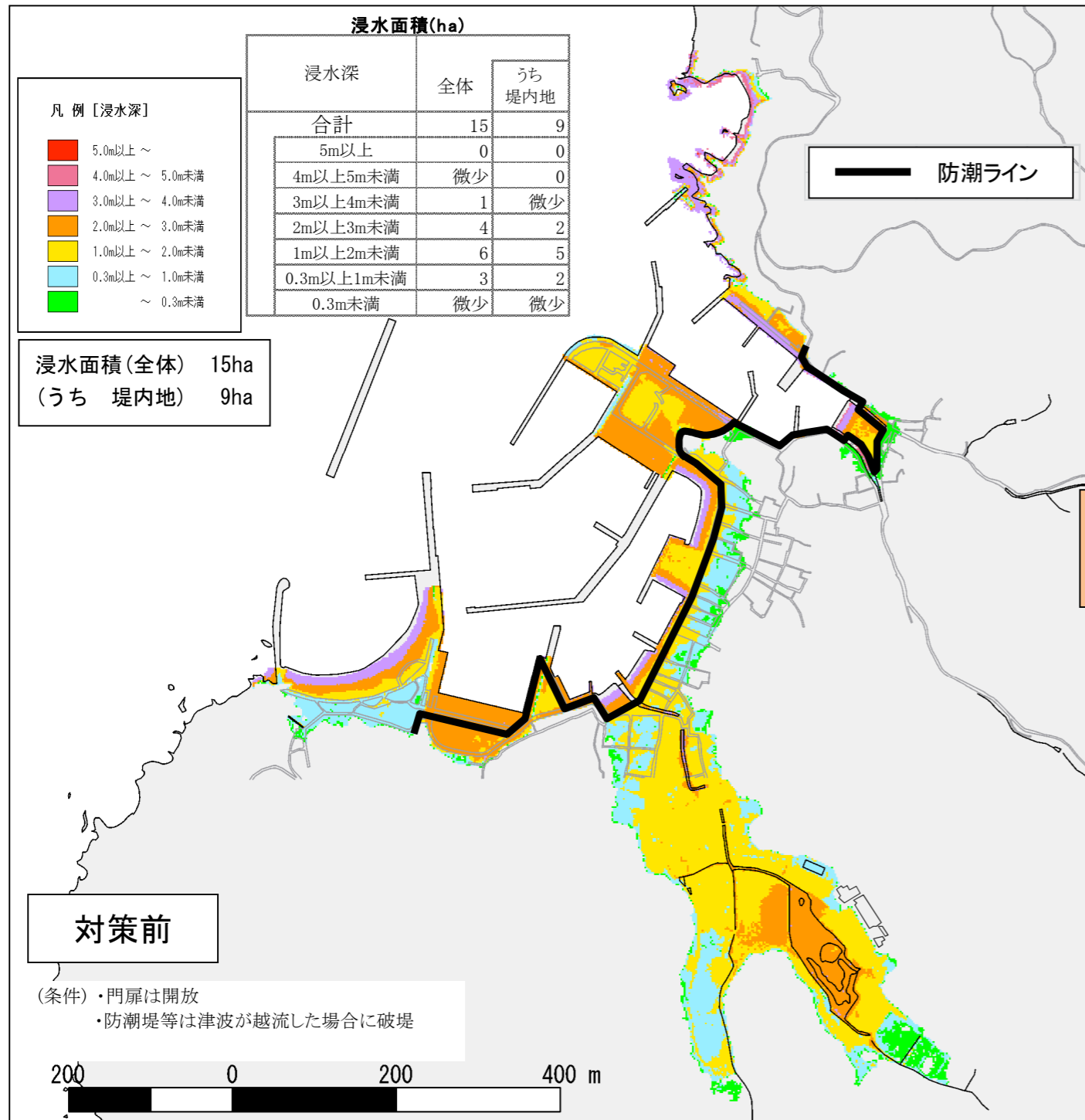
- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。

津波浸水想定図

沼島漁港 (L1 津波)

<効果>
○ 堤内地の浸水を解消 (9ha→0ha)

<津波対策>
① 港口水門の整備 2基
② 防潮堤の整備 0.1km
③ 防波堤等の改良 7基
④ 防潮堤の越流対策(基礎部の洗掘対策) 0.5km



【留意事項】

- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。

津波浸水想定図

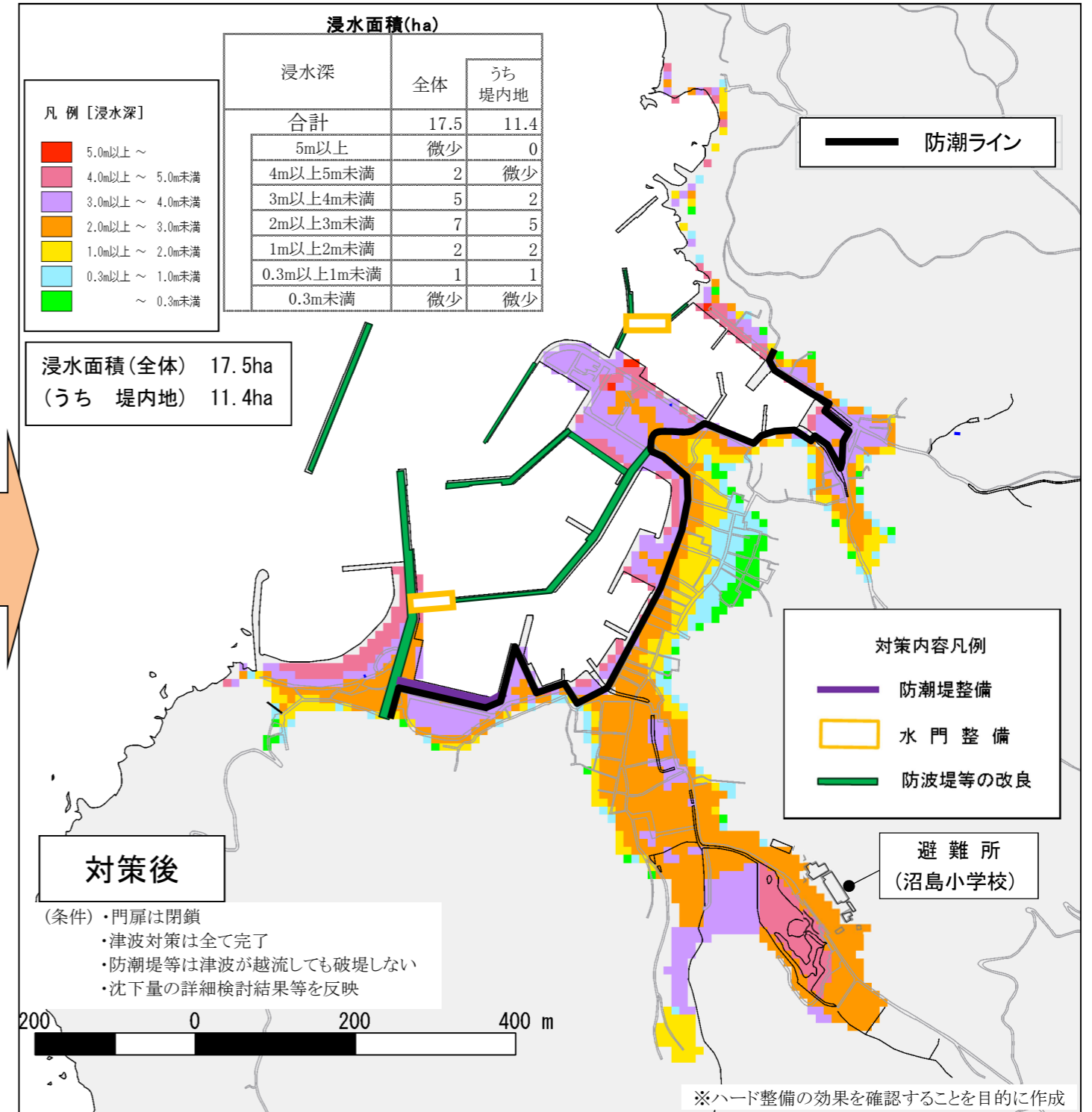
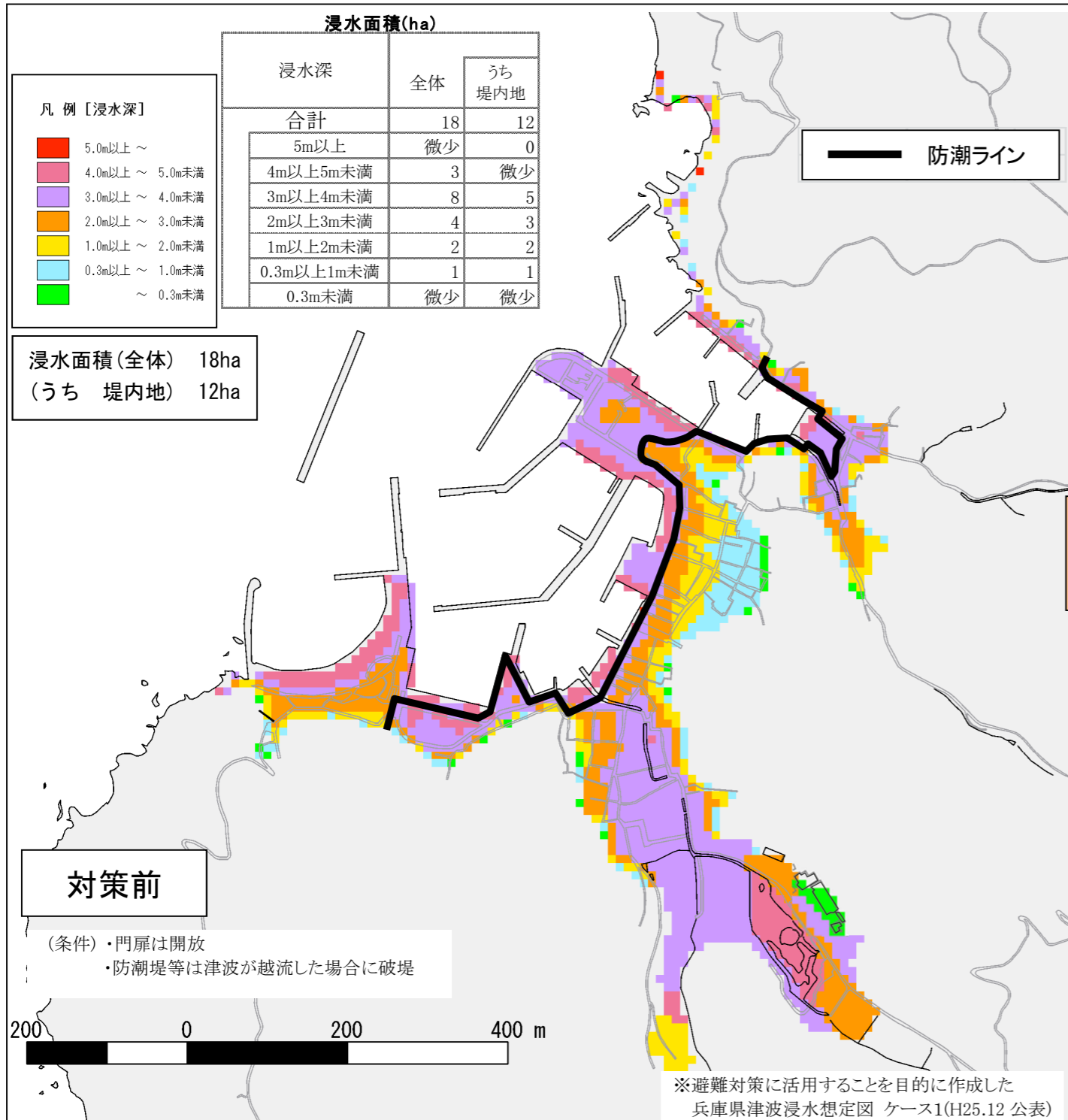
沼島漁港 (L2 津波)

<効果>

○ 避難所(沼島小学校)の浸水を解消

<津波対策>

- ① 港口水門の整備 2基
- ② 防潮堤の整備 0.1km
- ③ 防波堤等の改良 7基
- ④ 防潮堤の越流対策(基礎部の洗掘対策) 0.5km



【留意事項】

- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。

津波浸水想定図

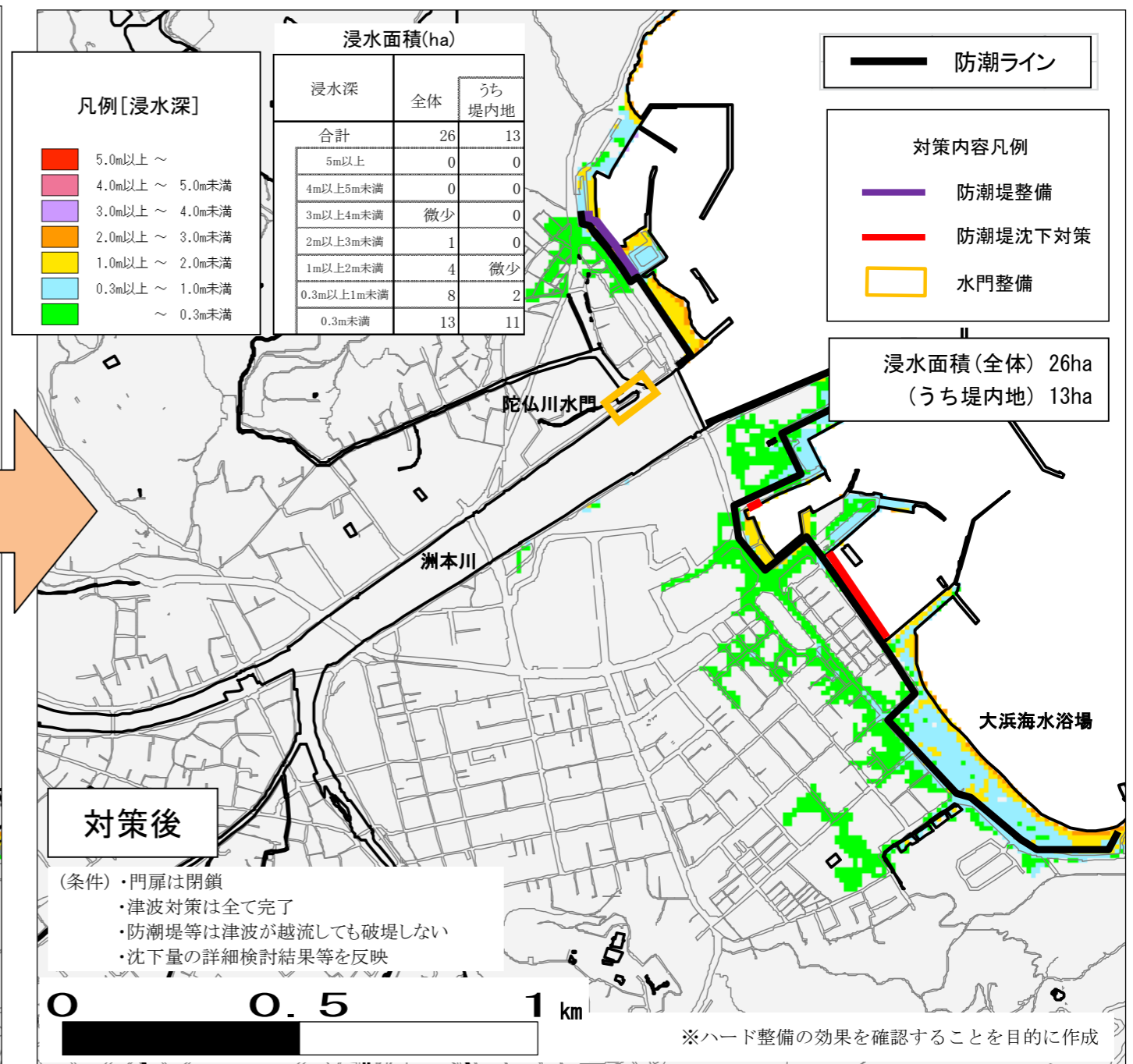
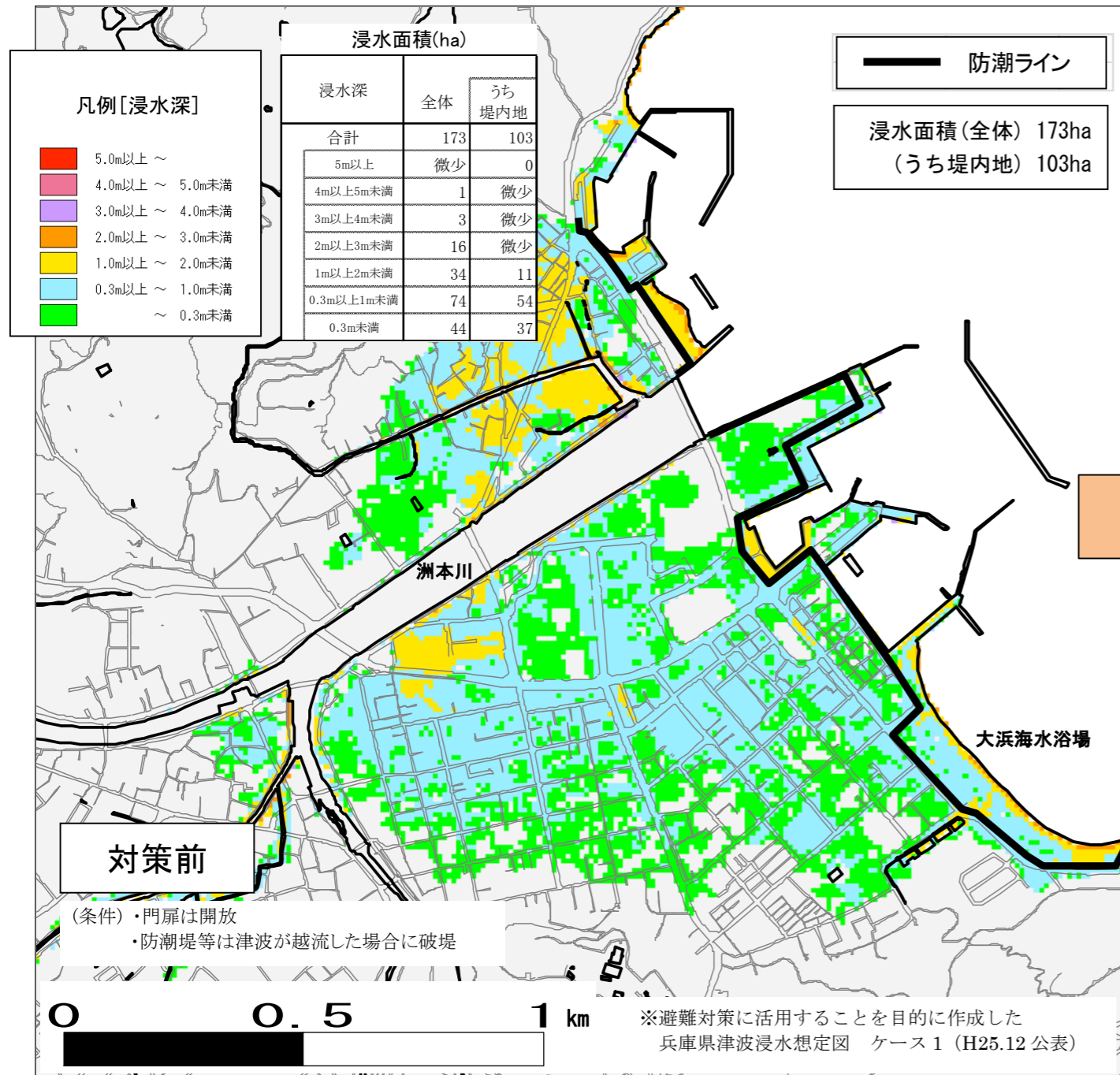
洲本地区 (L2 津波)

<効果>

- 堤内地の浸水面積を約9割縮減(103ha→13ha)
- 人家部の浸水深を避難行動がとれる0.3m未満に低減

<津波対策>

- ① 陀仏川水門の整備 1基
- ② 防潮堤の沈下対策 0.2km
- ③ 防潮堤の越流対策(基礎部の洗掘対策) 0.7km
- ④ 防潮堤の整備(洲本市施工) 0.2km



【留意事項】

- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算結果と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- ・整備の実施にあたっては、改めて地質調査等を実施して、工事区間や工法等を決定します。